

## 当院で前立腺がんに対する放射線治療を受けた患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。研究対象データの放射線治療プランは杏林大学医学部附属病院に提供されます。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報を研究目的に利用されることを希望されない場合には、下記の問い合わせにご連絡ください。

### 【研究課題名】

強度変調回転照射法におけるプランの複雑性による独立検証ソフトの汎用性評価

#### 1. 研究の対象

対象は苑田会放射線クリニックにおいて、前立腺がんを発症し放射線治療を受けた患者さんです。

対象患者は、2016年10月1日から2023年3月31日までに上記疾患に対する放射線治療を行なった患者さんです。

#### 2. 研究の目的・方法

目的： Monius3D は治療計画装置で作成された治療計画プランを検証するソフトです。特に強度変調回転照射法（Volumetric Modulated Arc Therapy ; VMAT）は様々なパラメータ（機械の回転速度や照射ビーム）を複雑に変化させながら行う放射線治療であり、安全な治療を行うために治療開始前にビームの検証をすることが定められております。Mobius3Dの精度を明らかにすることにより、ファントムを使用した実測の検証と比較し、時間や労力を削減し臨床におけるスループット改善が期待できます。

方法：実際の治療計画時に撮影したCT画像を用いて、VMATの放射線治療プランを作成します。作成した放射線治療プランをMobius3Dにて解析した結果と放射線治療プランから計算される数学的な複雑性の指標との相関を評価することにより、Mobius3Dの特性を評価することが出来ます。また、Mobius3Dの調整パラメータを放射線治療の複雑性の指標よりモデルを作成し、研究協力機関で作成された放射線治療プランを使用しモデルの汎用性を評価します。調査期間は2022年8月23日から2025年3月31日までの予定です。

#### 3. 研究に用いる情報・個人情報の取り扱い

この研究で収集する試料はありませんが、情報として放射線治療計画の情報を使用します。放射線治療計画の中身は実際の治療時に使用されている機械的パラメータ、例えば放射線の照射量や照射範囲の情報が含まれています。そのため撮影したCT画像が閲覧されることはありません。この研究は治療介入を伴わない既存の情報のみを用いた研究であるため、新たに人体に影響を及ぼすことはありません。

研究成果は学術集会や学術雑誌で発表することがありますが、使用させていただく放射線

治療計画の情報は治療計画装置上で匿名加工情報を作成し研究を行っていきますので学会や学术论文で個人が特定できないような形で使用いたします。保管は放射線治療部にあるパスワードにて管理されているサーバーに永久的に保管する。

#### 4. 倫理的配慮

本研究での個人情報の開示など個人情報に関する問い合わせ、研究への不参加、参加取り止めを希望される方は、下記までご連絡くださいますようお願いいたします。研究への不参加、参加を取りやめた場合は、研究責任者に連絡され、情報は削除されます。

#### 【本研究に関する問い合わせ先】

〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2

杏林大学医学部附属病院 放射線治療部 0422-47-5511 (内線：2795)

研究責任者：中井 健裕